

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	リラ（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和8年3月10日		～ 令和8年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	令和8年3月16日		～ 令和8年4月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月15日		

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	重症心身障害をお持ちの利用者様は言葉を発することはできないが、声を出すことはできるため、スタッフからの問いかけの際は、利用者様の声（返事）と合わせ、まなざし・表情を注意深く観察し、意思の確認をしている。	利用者様が疎外感や孤独感を感じることがないように、できるだけ数多く声をかけをするようにしている。	利用者様のご利用が多い日は、時間を決めて、もれなく利用者様に声をかけをしている。
2	日頃から利用者様の状況について、保護者様と密に連絡を取り合い、情報共有と共通理解を図っている。	現在の利用者様（1名）は重篤な障害をお持ちのため、努めて毎日、保護者様と連絡を取り、情報共有を徹底している。また、その際得た情報は利用者様の相談支援員にも迅速に漏れなく連絡するよう心掛けている。	利用者様への定期的なモニタリングのみならず、必要とされる際は面談や電話対応を行ったり、適宜アドバイスを行うことにより、より良い支援につなげていく。
3	利用者様は五感が大変鋭いことを考慮し、スヌーズレンを配置し、光・音・触覚などによる心地良い感覚刺激を提供している。	季節ごとに、天井や壁に飾り付けをし、季節感を楽しんでいる。	

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者様同士や地域の方等の交流がない。	長らくコロナウイルスやインフルエンザの流行が見られたこと、また、ご利用者様は障害が重く、感染症に罹病の際は生命に関わる事態も想定されることから、多数の方と関わる交流会の開催等は控えていた。	厳密な感染症対策を行いつつ、外部の方との交流を持つことができるよう、交流の内容やその実施方法等について検討していく。
2			
3			